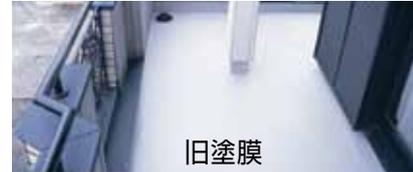


# 下地の種類：旧塗膜の塗り替え〈ウレタン防水以外〉の場合

※旧塗膜がアクリル液タイプの場合の仕様です

旧塗膜がはがれて下地が出ている場合は下地の種類に従って仕様を選んでください

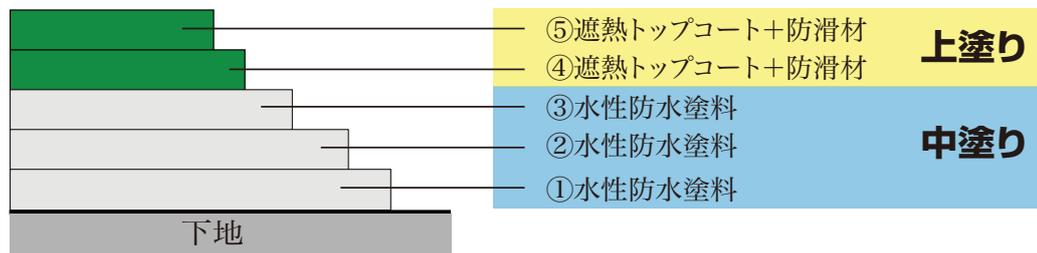
工程	塗料名	希釈	塗布量	塗布間隔 (23℃)
下地処理	下地処理	—	—	—
①中塗り	水性防水塗料	無希釈	0.15~0.2kg/m <sup>2</sup>	1時間
②中塗り	水性防水塗料	無希釈	0.35~0.45kg/m <sup>2</sup>	2時間
③中塗り	水性防水塗料	無希釈	0.35~0.45kg/m <sup>2</sup>	2時間
④上塗り	水性防水塗料専用遮熱トップコート+防滑材2%	無希釈	0.15~0.2kg/m <sup>2</sup> 0.003~0.004kg/m <sup>2</sup>	2時間
⑤上塗り	水性防水塗料専用遮熱トップコート+防滑材2%	無希釈	0.15~0.2kg/m <sup>2</sup> 0.003~0.004kg/m <sup>2</sup>	—



旧塗膜

下地の種類毎に施工方法・使用する材料・仕様が異なります。下地に応じた仕様で施工を行ってください。

## 工程



## 使用する材料

下塗り **不要**  
下地の条件によっては下塗りが必要な場合があります

+

中塗り  
水性防水塗料

+

上塗り  
水性防水塗料専用  
遮熱トップコート  
+ 遮熱トップコート専用 防滑材

## 施工上のポイント

- 〈下地処理〉…………… ・表層の劣化部分や付着不良部分をサンディングまたはデッキブラシを用いた水洗いなどで除去してください。  
 ・小さなクラックはシーリング材で埋めてください。  
 ・部分的にコンクリート・モルタル素地が出ている場合は**専用下塗剤セット**をうすめず素地が出ている部分に塗装します(吸い込みが激しい場合は2回塗り)。  
 ・シーリング材は、速乾一液ウレタンシーリングのノンブリードタイプを使用してください。
- 〈中塗りの注意〉…………… 1回目はあまり厚く付ける必要はありません。(図1)  
 2回目・3回目は波模様出来る位に厚く塗装します。(図2)



中塗りの塗布量

雨水が浸入したり、漏水がある場合は塗装を行わず、防水専門業者にご相談ください